



気になるあいつ  
わかぎゑふ

双葉社

## 金魚

この間、大阪のミナミにあるバー「富士」というところに連れて行ってもらった。

夜中まで打ち合わせした帰りだったので、場所は今度ゆっくり思い出そうと思っっているのだが…。

確かアメリカ村のどこかだった。ま、そんなことはないとして…そのバーは気さくなお姉ちゃんがひとりやっていて。「なんか飲む？」と聞かれつつ、瓶ビールと食べるものを注文した。

ぶりカマの塩焼き、ソーキチャンプル、肉じゃがなど、美味しい酒の

肴が揃っていて、いかにも大阪のバーという感じだった。なんせ大阪人はどこまでも「美味しいもの」がないと生きていけないので、夜のバーにでもメシが置いてないとダメなのだ。だから料理の上手い女性がひとりでバーを経営するケースは珍しくない。

大阪案内になってしまっているので、そのへんは次回にするとして、驚いたのはその店の食器だった。全部、彼女の富士山をモチーフにした絵皿のコレクションが使われているのだ。だからお店の名前も富士というらしい。

白一色だが、富士山型の小皿。線画だけで描かれた富士の絵が端っこに入った大皿。カラフルな伊万里っぽいお椀。どれを見ても富士、富士、富士の山だ。可愛いし、なんとも情緒のある食器ばかりだった。「ははあ、ええ趣味やなあ」と感心も得心もした。

それに彼女曰く、「全然、安いもんばかりやねん」とのこと。そのへんもいい。高いお金を出してそろえた物ではなく、ちよつとずつ蚤の

市なんかで買ったものが貯まった、という感じも温もりがあつて素晴らしい。確かに富士山柄のものは多いのだろうが、それでも素敵な趣味だと納得した。

影響されやすい私は、さっそく自分には何がそれに当たるか考えてみた。「金魚」である。中国人がお金が溜まるといつて重宝する金魚。今までも私の中ではいつも気になるレリーフで、時々買っていた。写真は香港で買った急須。見つけた時は値段交渉もせず買おうとして旦那に、「おいおい、ここは香港やで、一回値切つてから買いや」と止められたくらいだ。

他にもティーカップや湯のみなんかがある。金魚に限らず魚系のレリーフが好きなので、めだかの絵のお椀とか、鯉の絵のお猪口なんかもある。よし！ これからは金魚や魚のお皿を、なんとなく買おうと心に決めた。周囲はそれを聞いて「おいおい、またなんか始まったぞ」と思っ

てるようだが、今からどんなものに遭遇できるか楽しみだ。ただ心配は魚柄のものばかり集めて、肉料理を作った時にどう盛り付けるのかということだ。…ま、そういう事態になってから考えようと思っっているが。

---

【著者略歴】

わかぎあふ

1959年、大阪府生まれ。女優、エッセイスト。1986年より故中島らも氏とともに劇団「リリパット・アーミー」を主宰し、現在同劇団の進化形「リリパット・アーミーII」の座長。1994年より演劇ユニット「ラックシステム」を旗揚げ。演劇制作会社「玉造小劇店」を運営し、女優のみならず、脚本、演出、メイクから衣装まで芝居全般にわたりその才能を発揮し続けるスーパーレディ。主な著書に『すみっこのすみっこ』『女体の神秘』『秘密の花園』『ぬくい女』『イブの抜け穴』『大阪弁の詰め合わせ』など多数。

---